

# 効果的・効率的な国際教育交流・協力の推進及び能動的な交流事業を展開する上でのグローバル化時代における日本の高等教育:若干のコメント

広島大学理事・副学長(研究) 二宮 皓

## ■ 戦略的に

- アジアゲートウェイ戦略会議の描く戦略 — 人の流れと日本の魅力
- 留学生30万人計画の戦略性 — 世界に開かれた日本と国際競争力
- 国際戦略本部強化事業における大学の国際化戦略
- 国際産学連携事業における国際知財戦略と大学の海外展開
- グローバル30における戦略
- 各大学が描く特色・個性と戦略

## ■ 能動的(意図的・組織的)に

- 留学生は依然として「付加的」
- 海外留学は個人的事項
  - 大学教育プログラムとして(Study Abroad)(Curriculum Abroad)
- ビジネスとしての留学生・学生交流
  - 留学生の経済的効果

## ■ バイ・ラテラルからマルチ・ラテラルへ

- 個人的つながり(頼まれた)から大学としての戦略的連携へ
- 一方通行から双方向へ
- バイからマルチへ
  - ネットワーキング戦略重視
  - 交流機構(コンソーシアムなど)
    - UMAP-USCOプログラム
  - 「アジア版エラスムス」交流

## ■ 量と質

- 量はまだ少ない
- 質は比較優位性の問題を抱えたまま
- ブランド化戦略と質の意味
  - 優れた科学技術・工学
  - 日本文化(古典とアニメ)
  - 日本教育
  - 日本の企業の魅力

## ■ 進化する国際教育協力

- 日本の大学・大学院が育てた人材の活用(修士や博士)
- 世界の中の日本のポジションをよく理解した教育協力を
- 研究を基盤とする対話型の展開(A-Aダイアログ事業など)
- 日本の学校が途上国の学校と直結するような教育協力・交流を(英語活動が始まる日本の小学校・ESDに取り組む学校・国際教育協力指定校制度新設)

## 参考意見: 内向きの日本人学生論に関する私見 — 大学の海外派遣戦略は

- 戦後一斉に海外から引き上げる
- フルブライト留学など
- 『何でも見てやろう』世代
  - 「ひとつ、アメリカへ行ってやろう、と私は思った。3年前の秋のことである。理由ははしごく簡単であった。私はアメリカを見たくないのである。要するに、ただそれだけのことであった。」
- 「アラブもイスラエルも一緒」世代
- 「国際機関・国際協力」への憧れ世代
  - アメリカ・イギリスの大学院留学(キャリアパス)
- 豊かな財力を背景とする世代(3つのポケット世代)
  - 語学留学
  - オーストラリア、ニュージーランドなど安全・快適志向
  - 中国ブームと独仏の退潮
- 卒業海外旅行(二人旅)(大学生の修学旅行)
- 「財布を失った」世代
  - “Jobless Growth”
  - “World is Flat”(グローバル化の功罪)
- 「国際からの引きこもり」(意欲減退)現象
  - 「何も外国まで行かなくても」(ネット)
  - 短期学生交流への願書がでない
- 「コミュニケーション能力を喪失する」世代
  - 人を避ける(外国人留学生と交わらない)
- **大学等の戦略は**
  - 体験・実習重視型留学
  - 付加価値
  - 短期
  - 現地協働(コラボレーション)
  - 無利子貸付制度(JASSO奨学金制度? ボーナス返済)
  - 単位互換・認定の確約(学びの成立・評価)
- **社会の課題は**
  - 就職活動(3年生の夏から戦線が始まる)の抜本的改善(大学教育が機能不全になっている(国際的質保証・通用性))
  - 国際的学習を付加価値としてみてくれる(Employability、コンピテンス・リストに入れる)